

がたいせつだったのです。

『ひろい児』『砂糖のかくしどこ』『邪推深き後家』——賤子は、つきつきと作品を発表しました。どの作品にも、子供への深い愛情があふれています。大人のまちがった考えが、子供の心をどれほど傷つけていくか、子供にかわって、大人や社会によびかける作品もあります。

ならぬことはならぬ

生まれつき、あまりじょうぶでなかった賤子のからだは、仕事が重なって、だんだん悪くなつていきました。医者のおすすめで、しばらく郊外ののんびりしたところで休養したこともありましたが、しかし、忙しさからは、なかなか解放されません。